

# 子どもの生活の構造把握の試み

## —「数量化 III 類」の適用による分析—

岡 本 洋 三

(1982年10月15日 受理)

An Approach to the Structural Analysis of the Life-habits in childhood

—The Application of the Multivariate Analysis  
(Hayashi's Quantification theory III)—

Hiromi Okamoto

### 1. 問題意識と分析方法

現代は、子どもの危機の時代である。今日の子どもたちは、社会的・環境的条件の急激な変化のなかにおかれ、その否定的な影響は子どもの人間的な発達を阻害している。子どもの発達におけるゆがみは子どもの生活のあり方と深い関係があると考えられるので、子どもの発達における問題点をさぐる方法の一つとして、子どもの生活の実態を調査することが盛んに行なわれている。その多くは質問紙法によるもので、興味深い調査結果が報告されているが、一般にそれは回答結果の並列的な紹介にとどまり、調査によって得られたデータに含まれている貴重な情報を十分に汲みつくしていないきらいがある。ときには、調査項目間のクロス分析によって、それらの関係を分析しているものもあるが、そのとりあげた項目が子どもの生活構造において占める位置は必ずしも明確にされていない。

我々は、先に「鹿児島の子どもと親の生活と意識」について調査を行ったが<sup>1)</sup>、その調査における問題意識には、上述のような従来の調査にたいする不満から、子どもの発達と生活との関係をいくらかでも構造的にとらえる方法の模索があった。そこでまず、「子どもの自立」の問題に迫ることを基本課題とし、それを子どもの基本的な生活習慣としつけと親子（母子）関係との三者のからみのなかでとらえようと考えた。すなわち、自立の形成の基本的要件として「自主性」と「自主性を支える行動機制」の形成——（習慣化され、内化された生活・行為規範のまとまり）を仮定し、この自主性と行為規範の形成を促がし、方向づける働きとして「しつけ」をとらえ、この「しつけ」が有効性をもつ条件として「親子関係」が重要な意味をもつと考えたのである。この仮説は、きわめて概括的なフレームにすぎず、またここでとりあげた諸要素間の関係のみに限定されるものであるが、ともかく、このようなフレームで各質問項目を位置づけ、その関連を明らかにしようと考えたのである。この調査の分析は未だ進行中で、これまでのところ調査結果の総体の概要報告と若干の分析的な報告を発表しえた段階であるが、この分析作業の過程で、我々の研究作業の仮説やそれにもとづく質問項目の構成（カテゴリーカルな位置づけ）について再検討を要する問題が浮んで

第1表 質問文と選択肢  
鹿児島の子どもと親の生活と意識についての調査（児童生徒用）

学校名	[ ]	小学校 中学校	学 年	<input type="checkbox"/> 小5年 <input type="checkbox"/> 小6年 <input type="checkbox"/> 中1年 <input type="checkbox"/> 中2年 <input type="checkbox"/> 中3年
			性 別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
◆あなたのふだんの生活についておたずねします。あてはまる答のまえに—印をつけてください。				
1. 朝、自分ひとりで起きますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 寝すごしたときは起してもら <input type="checkbox"/> だれかに起してもら			
2. 毎朝、顔あらい・歯みがきをしていますか。	<input type="checkbox"/> いつもしている <input type="checkbox"/> ときどきしないことがある <input type="checkbox"/> しないほうが多い <input type="checkbox"/> 歯みがきは寝るまえにしている			
3. 朝食はきちんと食べていますか。	<input type="checkbox"/> いつも食べている <input type="checkbox"/> ときどき食べないことがある <input type="checkbox"/> 食べないほうが多い			
4. 毎朝、家を出るまえに排便(うんこをすること)をしますか。	<input type="checkbox"/> いつもする <input type="checkbox"/> ときどきしない <input type="checkbox"/> きまっていない			
5. ふとんやねまき(パジャマ)などのかたづけを自分でしていますか。	<input type="checkbox"/> いつもする <input type="checkbox"/> ときどきしないことがある <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> ベッドなのであまりすることがない			
6. 家を出るとき「行ってまいります」、帰ったとき「ただいま」などと家の人にあいさつをしますか。	<input type="checkbox"/> いつもする <input type="checkbox"/> ときどきする <input type="checkbox"/> しないほうが多い			
7. 夕食をたべながら、テレビを見ますか。	<input type="checkbox"/> あまり見ない <input type="checkbox"/> 好きな番組があるときは見る <input type="checkbox"/> いつも見る			
8. 勉強を始める時刻、終りの時刻をだいたいきめていますか。	<input type="checkbox"/> きめている <input type="checkbox"/> きめているがなかなかまもれない <input type="checkbox"/> きめていない			
9. あなたは外出するとき、家の人に行先や帰宅時間をいいますか。	<input type="checkbox"/> いつもいう <input type="checkbox"/> だいたいいう <input type="checkbox"/> きかれたらいう <input type="checkbox"/> いわない			
10. あなたは自分の部屋の掃除(そうじ)や机のまわりの整理(せいり)などを自分でしますか。	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> ときどきする <input type="checkbox"/> あまりしない <input type="checkbox"/> お母さんなどがする			
11. あなたは、お父さんお母さんにしごをたのまれたら、すぐしますか。	<input type="checkbox"/> だいたいする <input type="checkbox"/> 勉強中はしない <input type="checkbox"/> 遊んでいるときはしない <input type="checkbox"/> しないほうが多い <input type="checkbox"/> あまりたのまれることがない			
12. 家のなかのしごとで、あなたがすることになっているものは何ですか。あてはまるものにいくつでも—印をつけてください。	<input type="checkbox"/> 朝、雨戸(あまど)を開ける <input type="checkbox"/> 朝、新聞や牛乳などをとってくる <input type="checkbox"/> 犬・ねこ・鳥などの世話をする <input type="checkbox"/> 食事の準備を手つだう <input type="checkbox"/> 食事のあとかたづけをする <input type="checkbox"/> お風呂(ふろ)をわかす <input type="checkbox"/> 掃除(そうじ)をする <input type="checkbox"/> 買物をする <input type="checkbox"/> 洗たくをする <input type="checkbox"/> その他			
13. 学校から帰って夕食までの間、あなたはふだん何をしていますか。あてはまるものにいくつでも—印をつけてください。	<input type="checkbox"/> 家で勉強する <input type="checkbox"/> ひとりで遊ぶ(マンガをみたり) <input type="checkbox"/> テレビをみる <input type="checkbox"/> 本を読む <input type="checkbox"/> 家の中で友だちと遊ぶ <input type="checkbox"/> 外で友だちと遊ぶ <input type="checkbox"/> 寝る <input type="checkbox"/> 家のしごとや家事を手つだう <input type="checkbox"/> 塾(じゅく)やおけいこごとに行く <input type="checkbox"/> その他			
14. あなたは、勉強塾に行ってますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ			
15. 朝起きてから学校に出かけるまで、どのくらいの時間がありますか。	<input type="checkbox"/> 20分以下 <input type="checkbox"/> 20~40分 <input type="checkbox"/> 40~60分 <input type="checkbox"/> 1時間~1時間20分 <input type="checkbox"/> 1時間20分以上			
16. テレビは一日に何時間ぐらい見ますか。	<input type="checkbox"/> 見ない(見ないほうが多い) <input type="checkbox"/> 1時間以下 <input type="checkbox"/> 2時間以下 <input type="checkbox"/> 3時間以下 <input type="checkbox"/> 3時間以上			
17. 家での勉強時間は、だいたいどれくらいですか。	<input type="checkbox"/> あまりしない <input type="checkbox"/> 1時間以下 <input type="checkbox"/> 2時間以下 <input type="checkbox"/> 3時間以下 <input type="checkbox"/> 3時間以上			
18. 寝るのはだいたい何時ごろですか。	<input type="checkbox"/> 9時以前 <input type="checkbox"/> 9~10時前 <input type="checkbox"/> 10~11時前 <input type="checkbox"/> 11~12時前 <input type="checkbox"/> 12時以後			
19. あなたは、お父さんお母さんなどよく話をするほうですか。	<input type="checkbox"/> いつも話をする <input type="checkbox"/> ときどきする <input type="checkbox"/> あまり話をしない			
20. あなたが親に話をするときは、どんなことを話すことが多いですか。あてはまるものにいくつでも—印をつけてください。	<input type="checkbox"/> 学校のできごと <input type="checkbox"/> 友だちや遊びのこと <input type="checkbox"/> 勉強のこと <input type="checkbox"/> 進学など自分の将来のこと <input type="checkbox"/> 世の中のできごと			

きた。

この問題を説明するためにまず最初に、我々の調査の質問文を次に掲げる。(本論に直接関係のない部分は省略した。)

21. あなたは、お父さんがどんなしごとをしているか知っていますか。	<input type="checkbox"/> よく知っている <input type="checkbox"/> 少し知っている <input type="checkbox"/> ほとんど知らない
22. あなたは、おごつかいを計画をたててつかいますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> おごつかいがきまっていない
23. 毎月のおごつかいで買えない高い値段(ねだん)のものがほしいとき計画的につみたてますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない
24. あなたは、勉強の計画を自分でたてて実行していますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない
25. あなたは、自分が正しいと思えば、仲良しの友だちとでも、いいあうことがありますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない
26. あなたは、いやなことはいやと、はっきり自分の気持ちがいきますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない
27. あなたは、テレビの見たい番組があると、テレビを見てしまい、予定していた計画をかえたり宿題などがやれなかったことがよくありますか。	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらともいえない
28. あなたは、自分がやりたいと思っても、人にめいわくになるようなことは、じつがまんすることができませんか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない
29. あなたは、きれいなものでも、からだのためになるものは、がまんして食べますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない
30. あなたは、友だちと約束したことは、きちんとまもりますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない
31. あなたは、学級の係やクラブ(部活動)のしごとをひきうけたときせいいっぱいがんばりますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない
32. お母さんは、あなたにあいさつをきちんとするようにいますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> ほとんどいわない
33. お母さんは、あなたに友だちと仲良くしいじわるなどしないようにいますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> ほとんどいわない
34. お母さんは、あなたが外出するとき「行先は？」とか「何時ごろ帰えるの？」とききますか。	<input type="checkbox"/> よくきく <input type="checkbox"/> ときどききく <input type="checkbox"/> ほとんどきかない
35. お母さんは、あなたの部屋や机などを自分できれいにするようにいますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> ほとんどいわない
36. お母さんは、うそをつかないようにと注意しますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> ほとんどいわない
37. お母さんは、あなたに道路や公園に紙くずなどをすてないようにと注意しますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> ほとんどいわない
38. お母さんは、一つのことを最後までやりとげるようにいますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> ほとんどいわない
39. お母さんは勉強や遊びの時間にけじめをつけるようにと注意しますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> ほとんどいわない
40. お母さんは、あなたにむだづかいをしないようにと注意しますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> ほとんどいわない

第1表 (つづき)  
鹿児島の子どもと親の生活と意識についての調査(母親用)

夫(子どもの父)の年齢	<input type="checkbox"/> 30歳未満 <input type="checkbox"/> 31~35歳 <input type="checkbox"/> 36~40歳 <input type="checkbox"/> 41~45歳 <input type="checkbox"/> 46~50歳 <input type="checkbox"/> 51~55歳 <input type="checkbox"/> 56歳以上 <input type="checkbox"/> いない
あなた(子どもの母)の年齢	<input type="checkbox"/> 30歳未満 <input type="checkbox"/> 31~35歳 <input type="checkbox"/> 36~40歳 <input type="checkbox"/> 41~45歳 <input type="checkbox"/> 46~50歳 <input type="checkbox"/> 51~55歳 <input type="checkbox"/> 56歳以上 <input type="checkbox"/> いない
夫(子どもの父)の最終学歴	<input type="checkbox"/> 中学校卒業(旧制小学校・高等小学校を含む) <input type="checkbox"/> 高等学校卒業(旧制中学校・実業学校等を含む) <input type="checkbox"/> 短期大学卒業(旧制高等学校・専門学校を含む) <input type="checkbox"/> 大学・大学院卒業(旧制大学・大学院を含む)
あなた(子どもの母)の最終学歴	<input type="checkbox"/> 中学校卒 <input type="checkbox"/> 高等学校卒 <input type="checkbox"/> 短期大学卒 <input type="checkbox"/> 大学卒
夫(子どもの父)の職業	<input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 雇用者(臨時雇用-パートを含む) <input type="checkbox"/> 無職
自営業・雇用者の方は右欄の職業のなかからもあてはまるものを一つ選んでください。	<input type="checkbox"/> 農・林・水産業 <input type="checkbox"/> 商業 <input type="checkbox"/> サービス業 <input type="checkbox"/> 技能・労務 <input type="checkbox"/> 一般事務 <input type="checkbox"/> 会社(団体)役員 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 医師・弁護士など <input type="checkbox"/> パート
あなた(子どもの母)の職業	<input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 雇用者(臨時雇用-パートを含む) <input type="checkbox"/> 無職
自営業・雇用者の方は右欄の職業のなかからもあてはまるものを一つ選んでください。	<input type="checkbox"/> 農・林・水産業 <input type="checkbox"/> 商業 <input type="checkbox"/> サービス業 <input type="checkbox"/> 技能・労務 <input type="checkbox"/> 一般事務 <input type="checkbox"/> 会社(団体)役員 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 医師・弁護士など <input type="checkbox"/> パート
現在同居している家族は何人ですか。	<input type="checkbox"/> 2人 <input type="checkbox"/> 3人 <input type="checkbox"/> 4人 <input type="checkbox"/> 5人 <input type="checkbox"/> 6人以上
お子さんは何人ですか	<input type="checkbox"/> 1人 <input type="checkbox"/> 2人 <input type="checkbox"/> 3人 <input type="checkbox"/> 4人 <input type="checkbox"/> 5人以上
この「調査」を持ち帰ったお子さんは次のどれにあたりますか。	<input type="checkbox"/> 長子 <input type="checkbox"/> 中間子 <input type="checkbox"/> 末子
日本人の生活水準を5段階に区分したとき、あなたの家庭の生活水準は、その区分のどこにあたると思いますか。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中の上 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 中の下 <input type="checkbox"/> 下

◆以下の質問は、この「調査」を持ち帰ったお子さんについておたずねするものです。あてはまる答のまえに—印をつけてください。

この質問項目は、前述のような考えから、第2表のように区分され、また母と子の回答を比較できるように構成されている。もちろん、この区分は絶対的なものではなく、内容によってはその区分以外の項目の質問として利用することも予定している。(cは子どもにたいする質問、mは母親にたいする質問である。対象は、小学5年、中学1年、中学3年の男女とその母親である。)

我々は、子どもの生活習慣の形成において、基礎的で低次のものより高次なものがあり、基礎

11. お子さんは、毎朝、洗顔や歯みがきをきちんとしていますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> だいたいしている <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 歯みがきは寝る前にしている
12. お子さんは、家の仕事や家事を手つだいますか。	<input type="checkbox"/> すすんでする <input type="checkbox"/> たのめばする <input type="checkbox"/> ときにはする <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> させていない
13. お子さんは、他人の意見に耳をかたむけるほうですか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらかといえそうだ <input type="checkbox"/> きかないほうだ
14. お子さんは、人の好意にたいして「ありがとう」、自分の失敗などに「ごめんなさい」など、きちんとするほうですか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらかといえそうだ <input type="checkbox"/> いいえ
15. お子さんは、人前で自分の考えや意見をはっきりいうほうですか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> どちらかといえそうだ <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない
16. お子さんは、乗物のなかで騒ぐようなことはありませんか。	<input type="checkbox"/> 騒がない <input type="checkbox"/> ときには騒ぐ <input type="checkbox"/> よく騒ぐ <input type="checkbox"/> わからない
17. お子さんは、家を出るとき「行ってまいります」、帰ったとき「ただいま」などあいさつしますか。	<input type="checkbox"/> いつもする <input type="checkbox"/> ときどきする <input type="checkbox"/> しないほうが多い
18. お子さんは友だちと仲良くしていますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> ときにはけんかをする <input type="checkbox"/> わからない
19. お子さんは、外出するとき行先や帰宅時間をいいますか。	<input type="checkbox"/> いつもいう <input type="checkbox"/> だいたいう <input type="checkbox"/> たずねなければいわない <input type="checkbox"/> ほとんどいわない
20. お子さんは、自分の部屋や机の整理などを自分でしますか。	<input type="checkbox"/> いつもする <input type="checkbox"/> ときどきする <input type="checkbox"/> ほとんどしない
21. お子さんは、うそをついたり約束をやぶったりすることがありますか。	<input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> ときにはある <input type="checkbox"/> よくある
22. お子さんは、道路や公園で紙くずを捨てたり、チューイングムをはきすてたりしますか。	<input type="checkbox"/> ほとんどしない <input type="checkbox"/> ときどきする <input type="checkbox"/> よくする <input type="checkbox"/> わからない
23. お子さんは、やりかけたことは最後までやりとげるほうですか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 事柄によるが努力するほうだ <input type="checkbox"/> あきつぽく途中で投げ出すことが多い <input type="checkbox"/> わからない
24. お子さんは、勉強や遊びの時間のけじめをつけていますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> ときどきけじめがつかないことがある <input type="checkbox"/> だらしないほうだ <input type="checkbox"/> わからない
25. お子さんは、むだづかいをするほうですか。	<input type="checkbox"/> ほとんどしない <input type="checkbox"/> ときどきする <input type="checkbox"/> よくする <input type="checkbox"/> わからない

◆以下の質問は、お母さんのこれまでの「お子さんにたいするしつけ」についておたずねするものです。現在はしなくても、これまでにしてきたことであれば「している」というようにお答えください。

26. あなたは、お子さんに洗顔や歯みがきをするようにいいますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> しないときには注意する <input type="checkbox"/> あまりいわない
27. あなたは、お子さんに家事を手つだうようにしつけていますか。	<input type="checkbox"/> 役割をきめてさせている <input type="checkbox"/> 必要なときはいつけてさせている <input type="checkbox"/> いうことをきかないのでさせていない <input type="checkbox"/> とくにしつけていない
28. お子さんに他人のいうことにすなおに耳を傾けるようにいいますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> あまりいわない
29. お子さんに、人の好意に「ありがとう」、自分が悪かったときには「ごめんなさい」というようにしつけていますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときどきいう <input type="checkbox"/> あまりいわない
30. お子さんに自分の考えや意見をはっきりいうようしつけていますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> とくにしつけていない
31. お子さんに乗物のなかで騒いだり他人の迷惑になるようなことをしないように注意していますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> そのようなことがあったときには注意する <input type="checkbox"/> とくに注意しない
32. お子さんに「あいさつ」(おはよう：行ってまいります：ただいま：など)をするようにしつけていますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> しないときにはいう <input type="checkbox"/> あまりいわない
33. お子さんに友だちと仲良くいじわるなどしないようにいいますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> 問題があったとき <input type="checkbox"/> とくにいわない
34. 子どもが外出する時に行先や帰宅時間をいうようにしつけていますか。	<input type="checkbox"/> よくする <input type="checkbox"/> いわないときはきく <input type="checkbox"/> とくにしつけていない
35. お子さんに自分の部屋や机は自分で掃除・整理するようにいいますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> 乱雑になっているときはいう <input type="checkbox"/> いわない
36. うそをついたり、約束を破ってはいけないとしつけていますか。	<input type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 問題があったときにはいう <input type="checkbox"/> いわない
37. お子さんに、道路や公園などで紙くずを捨てたりチューイングムをはきすてたりしないようにしつけていますか。	<input type="checkbox"/> いつも注意している <input type="checkbox"/> そのようなことがあったときには注意する <input type="checkbox"/> あまりいわない
38. お子さんにやりかけたことは最後までやりとげるようにいいますか。	<input type="checkbox"/> 機会あるごとにはげましている <input type="checkbox"/> 途中で投げだすようなときには注意することがある <input type="checkbox"/> とくにいうことはない
39. お子さんに勉強や遊びの時間にけじめをつけるようにいいますか。	<input type="checkbox"/> 自分で時間をきめてそれを守るようにいっている <input type="checkbox"/> 親から適当な時間をいわたし、それを守るようにいっている <input type="checkbox"/> けじめがないと思われるときだけ注意する <input type="checkbox"/> とくにいわない <input type="checkbox"/> 子どもが自分できめることから自由にさせている
40. お子さんにむだづかいしないように注意しますか。	<input type="checkbox"/> よくいう <input type="checkbox"/> ときにはいう <input type="checkbox"/> あまりいわない <input type="checkbox"/> きめたお小遣いの範囲であればなにもいわない

第2表 質問の区分項目と対応質問番号

子 ども		母 親	
項 目	質 問 番 号	項 目	質 問 番 号
生活リズム	C1~4, 8, 15~18	フェースの質問	
生活習慣	C5~14	生活習慣のための家庭の条件	m 7~9
親子の接触・認知	C19~21	親子の接触・認知	m 1~4, 5~6
自主性・主体性	C22~31	しつけの達成度	m 11~16, 17~25
しつけの受けとめ	C32~40	しつけの努力	m 32~40
親子関係	C41~60	親子関係	m 41~60

的な生活習慣の確立はより高次な生活習慣の形成のための土台となり、またより高次なものの形成を支える働きをするという関係を予想した。(もちろんこの関係は蓋然性であって決定的なものではありえない。)このような想定で子どもの生活習慣のうち基礎的と思われるもので生理的な生活リズムに関すると思われるものを「生活リズム」として位置づけ、またより高次な生活習慣のなかにもいくつかのレベルを予想し、これらの質問の回答をクロスさせて分析することによって子どもの生活の構造の問題点が把握できるのではないかと考えたのである。ところが、実際にクロスをさせてみると、この仮説では説明が困難な結果がでてきた。次の第3表は、クロスしたもののいくつかを例示的に示したものである。(この表は、小学5年男子についての結果である。)

第3表では、上側に「生活習慣」を基礎的と思われるものからより高次と考えられる習慣へと並

第3表 生活習慣相互の関係(小学5年・男子)

	C4 毎朝排便する (1, 2)	C2 毎朝はみがき する (1, 2, 4)	C6 あいさつする (1)	C9 外出するとき 行先などという (1, 2)	C10 自分の部屋を 掃除する (1, 2)	C17 勉強1時間以 上する (3, 4, 5)
C1 朝ひとりで起きる (1, 2) 起してもらおう(3)	62.4 (-) 57.9 712	91.6 (-) 91.8 709	80.6 (-) 77.6 713	58.8 (-) 55.0 714	80.5 (**) 68.1 714	66.1 (-) 66.3 735
C2 毎朝はみがきする (1, 2, 4) しない方が多い(3)	62.1 (-) 50.0 707		81.5 (**) 62.7 708	59.8 (**) 35.6 709	79.2 (**) 62.7 709	60.3 (-) 51.7 698
C6 あいさつする(1) しない方が多い (2, 3)	64.7 (**) 48.6 711	93.5 (**) 84.5 708		62.8 (**) 39.2 713	81.2 (**) 64.3 713	63.5 (**) 44.0 702

C1, C2……質問番号 質問の回答文の( )はその回答区分のなかに含まれる選択肢の番号 表中の数値は % 数値の後の(-)(\*\*)は「独立性」についての $\chi^2$ 検定の結果で(-)は有意水準10%以上で、「関係がない」もの、(\*\*)は有意水準1%以下で「独立性」が否定できるものを示す。  
表中の右下の数値は、そのクロスサンプル総数である。項目により無回答のための若干変動しているが、無回答数は多くはない。

べて、左側には「基礎的生活習慣」から起床とはみがき、やゝレベルの異なると考えられる「あいさつ」を並べた。全体的にみると、好ましい習慣を確立している子ども（上段）の方が、習慣のできていない子（下段）よりも、他の生活習慣でも好ましい習慣を身につけている％が大きいから、先の我々の仮説は肯定されるようであるが、もっとも基礎的な生活習慣と考えられる「ひとりで起きる」かどうかの項目の場合、その％の差はきわめて小さく、到底「有意」なものとはいえない。（部屋の掃除のみは「有意」である。）同じ「基礎的」とみなした「はみがき」の場合には、全般的に「習慣確立」群と「未確立」群の差は大きく、「排便」「勉強時間」では5%水準では「独立性」仮説を棄却できないが、10%では棄却できる。さらに先の区分では「基礎的」なものに含めなかった「あいさつ」では、すべての項目とのクロスにおいて、この「習慣確立」群は他の習慣との間に好ましい相互関連があることを推定させる（1%水準で）。このようにみていくと、先の我々の仮説において、何が「基礎的」な習慣であり、何が「より高次の」ものであるかという区分を修正すれば、十分にその成立を推論できそうである。これまでの検討結果では、「朝、ひとりで起きる」という習慣を「基礎的生活習慣」のカテゴリーの中に位置づけることには、問題があるということになる。それは他の習慣との「関連」性がはっきりせず、「独立」しているとみられるのである。そこで、もう一度、我々の質問項目の構成——それはまた子どもの生活構造についての仮説でもある——を検討し直してみようというのが、本稿の課題である。

我々が「基礎的」であるとか「より高次のもの」とか、子どもの生活習慣をとらえる枠組としてきたものは、必ずしも厳密に規定されたものではないが、しかしまた全く根拠のない恣意的なものでもない。「朝、ひとりで起きる」という習慣を「基礎的」なものとするのは、そこに子どもの幼少からの「自立」への歩みが体现されているし、それが生理的な生活リズムの確立によって可能となると考えられるからである。しかし、考えてみると、今日の子どもの問題状況は、我々が従来経験的に好ましいと考えてきた習慣が確立しにくくなっていること、そのような習慣と表裏の関係にある子どもの生活のしかたや生活を方向づける社会環境的条件が激変していることに由来しているのであるから、従来のフレームでとらえることにはそもそも問題があるわけである。また、質問紙法という調査方法自体が、質問文とそこに設けられている回答選択肢によって現実のある側面を切りとろうとするのであり、しかもそれは被調査者の質問文にたいする理解・受けとめに依存するのであるから、幾重にもフィルターがかかっている。このような点を考えると、我々が質問項目の回答結果を個別的に分析する場合、その質問項目が被調査者にどのように受けとめられているかを考慮しないで、我々が質問に与えた「意味づけ」に安易によりかかって回答結果を判断することは危険であろう。そこで、まず、これらの各質問が被調査者（集団）にどのような受けとめられかたをしているか、それを回答のパターンからとらえ直してみることに、それを手がかりとして子どもの生活（習慣）の構造をとらえてみよう。このような考えで我々が一定の類似性をもっていると考えた質問群について、林知己夫氏の数量化 III 類を適用して、その類別を試みた。

数量化 III 類は、カテゴリーにたいする反応のような質的データを数量的に取り扱う方法で、

データの反応パターンによってサンプルとカテゴリーを同時に数量化する。サンプルに与える数値（スコア）とカテゴリーに与える数値（ウェイト）は、反応パターンが似ているサンプルは似た数値スコアになるように、反応パターンが似ているサンプルによって反応されるカテゴリーは似たウェイトになるように、すなわちスコアとウェイトの相関係数が最大になるように定められるのである。我々の場合、質問（カテゴリー）にたいする反応は3～5の選択肢から選ばれた回答であるが、そのままでは複雑になるので、肯定的な回答に1を、否定的な回答に0を与え、カテゴリーにたいする反応を(1-0)に単純化した。サンプルの属性に関するカテゴリーの場合は各選択肢の数だけのレベルを設けた。この数量化 III 類の適用は「FACOM」に用意されている「QUANTAS-3」によって行われた。

なお、以下の分析では、サンプルを小学5年の子と母親に限っている。それは当面の目的が質問項目の分類・構成の再検討であり、それをサンプルの反応パターンによって行なおうとするので、そのサンプルの生活の構造が余りに複雑であると分析が困難になると考えたからである。これまでのデータの検討では、小5と中3ではかなり生活構造が変化していることがわかっているし、また発達段階もちがうので質問文の読み方にもちがいがあることが推測されるからである。回答の反応パターンは従って小学5年の児童とその母親に関するもので、それはまた小学5の児童の生活構造をそれなりに反映するものとしてみることができるであろう。

## 2. 子どもの生活構造—日常生活習慣から

我々の質問項目のなかから、基礎的な生活習慣と考えられる C1～C4 の質問と、それよりはやや高次な生活習慣とみられる C5～C11 の質問をまとめて数量化 III 類でパターン分類を行なった。第4表は、サンプルとカテゴリーの適合状況となる相関係数・固有値・寄与率(%)・累積寄与率(%)を、第5表は「解」として与えられた軸のうち、第2軸までのカテゴリーウェイトを示したものである。第5表で カウント とあるのは、そのカテゴリーの反応数(サンプルの数)である。カテゴリーはすべて、その質問にたいする肯定回答でみている。「解」はカテゴリー数より1すくない数まで求められるが、この考察では第2軸までにとどめた。また数値はすべて小数点以下3桁目を4捨5入して簡略化してある。

第4表にみるとおり、第1軸と第2軸はかなり似かよった数値で、その説明力に大きな差はない。第2軸までの累積寄与率が28.1%というのは決して大きな値ではないが、この種の結果としてはかなりの説明力であるとみられる。第5表のカテゴリーウェイトを整序して各軸の意味を考え

第4表 軸別相関係数・固有値・寄与率

	相関係数	固有値	寄与率 (%)	累積寄与率 (%)
AXIS 1	0.40	0.16	14.8	14.8
AXIS 2	0.38	0.15	13.3	28.1

第5表 カテゴリーウェイト

質問番号	カテゴリー	カウント	AXIS 1	AXIS 2
C 1	ひとりで起きる	466	-0.00	1.12
C 2	はみがきする	866	0.16	0.38
C 3	朝食たべる	1,152	0.54	0.44
C 4	毎朝排便する	319	3.07	-3.04
C 5	ふとんかたづけ	436	-1.57	-0.90
C 6	あいさつする	1,195	0.41	0.37
C 7	夕食時テレビみない	275	-1.55	-2.25
C 8	勉強の時刻きめる	357	-1.19	-1.34
C 9	行先などいう	449	-0.80	-0.34
C10	部屋自分で掃除	528	-1.29	0.08
C11	しごとたのまれたらする	1,029	0.33	0.75

てみよう、第1軸では、(+)側に「毎朝、排便する」と「朝食たべる」(これはかなり原点に近い)が、(-)側に「ふとんかたづけ」「夕食時テレビをみない」「部屋は自分で掃除」「勉強の時刻きめる」が並ぶ。前者は生理的で「意志」にあまりかかわらない生活習慣であり、後者は「意志」的であり自覚的な努力が必要とされる習慣であるから、第1軸は「生理的習慣——意志的習慣」を区別している尺度であるとみられる。第2軸では、(+)側に「ひとりで起きる」「しごとたのまれたらする」が、(-)側に「毎朝、排便」「夕食時テレビをみない」「勉強の時刻きめる」が並んでいる。(+)側はウェイトも小さく特徴がはっきりしないが比較的「外向的な行為」である。(-)側はサンプル・カウントをみるとわかるように、いまの子どもたちにとってなかなか実行しにくい生活習慣のようである。「排便」は男女差がきわめて大きい項目で生理的な条件に強く規定され、かなり努力をしなければ確立しにくい。このようにみると、この軸は「習慣形式の条件の複雑さ」の度合、あるいは習慣の「レベル」を区別している軸とみてよいだろう。

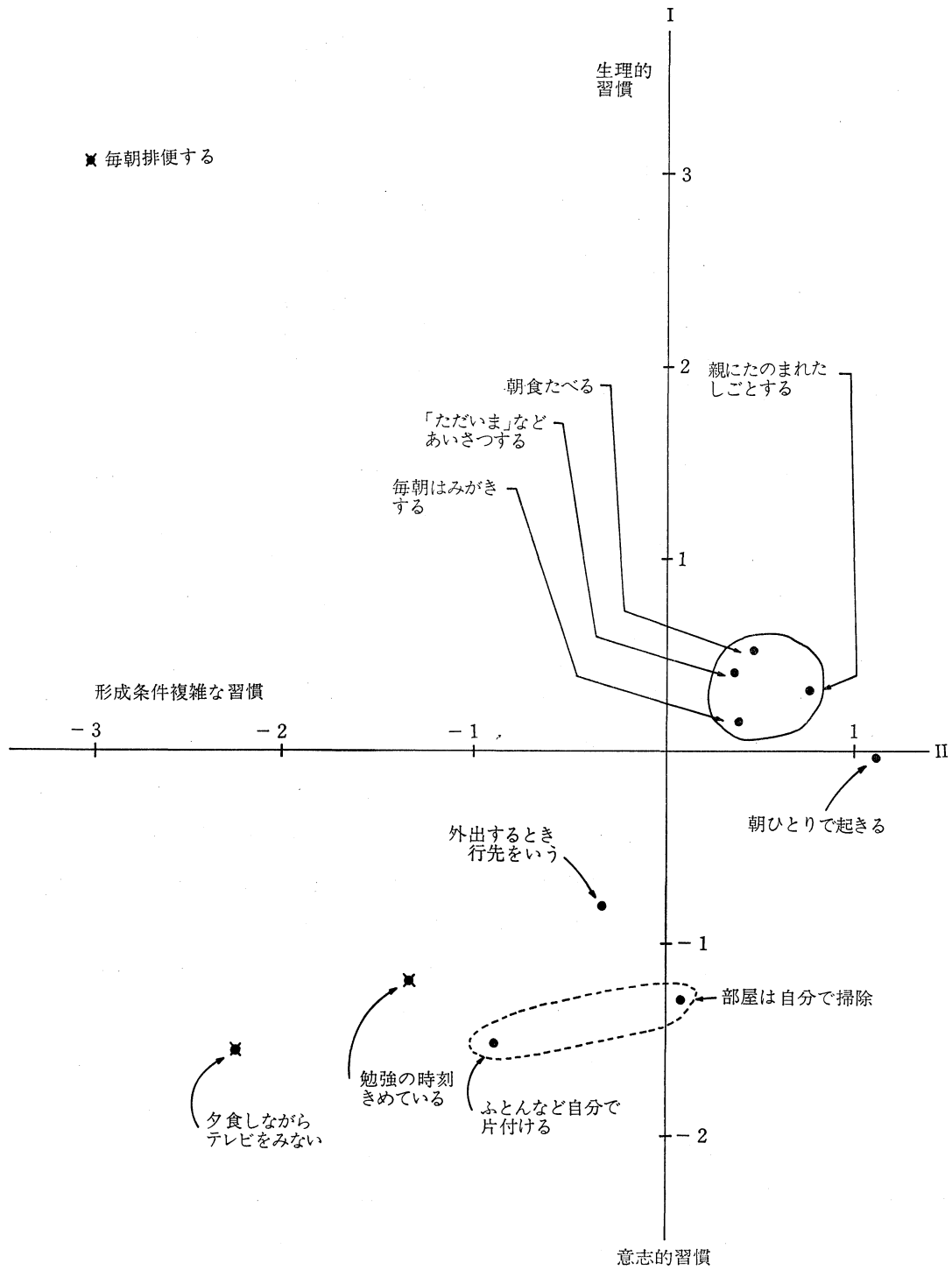
この2つの軸によってカテゴリーの類似性をみたのが第1図である。この図は、第1軸と第2軸によってカテゴリーの類似性をみているわけであるが、先の第4表の累積寄与率からもわかるようにこの2軸によって説明しうるのは約30%弱であり、各カテゴリーの類似性もその範囲でのことである。この2つの尺度ではとらえきれない部分も含め(上記の分析で特徴が見出しえない項目間の関係をも含め)、これらの質問項目に反映されているであろう「子どもの生活の諸側面あるいは諸事実」の類似性をみるために、これらのカテゴリー相互の距離をみよう。使用した「QUANTAS-3」は、指定されたp次元空間上のカテゴリー間の距離を次の式で求めている。

$$d_{jk} = \left[ \sum_{v=1}^p ({}^{(v)}x_j - {}^{(v)}x_k)^2 \right]^{1/2} \quad \begin{array}{l} d_{jk} \text{ はカテゴリー } j \text{ とカテゴリー } k \text{ の距離} \\ x \text{ はカテゴリースコア} \end{array}$$

$d_{jk}$ の値が小さいほど、そのカテゴリー間の類似性が強いことを示す。第6表はこのようにしてもとめられたC1~C11の各カテゴリー相互の距離を示している。

今、この距離が、1.00以下のものを「きわめて類似性が強い」もの、1.01~2.00を「類似性が





第1図 子どもの生活習慣

ある」もの、5.00以上を「孤立している」もの、という基準でみることにすると、次のようなグループが見出される。

- 「きわめて類似性が強い」——「はみがき」「朝食」「あいさつ」「手つだい」の習慣
- 「類似性がある」——「ふとん」と「掃除」

第6表 カテゴリー間の距離行列

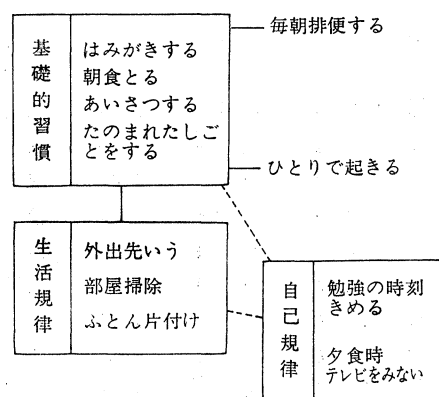
	C 1	C 2	C 3	C 4	C 5	C 6	C 7	C 8	C 9	C10	C11
C 1	0.0										
C 2	4.09	0.0									
C 3	3.79	0.67	0.0								
C 4	5.95	4.98	4.71	0.0							
C 5	4.46	3.18	3.22	5.20	0.0						
C 6	3.86	0.41	0.38	4.70	3.12	0.0					
C 7	6.29	4.96	4.89	6.81	4.95	5.04	0.0				
C 8	5.03	4.07	4.45	6.18	5.01	4.22	6.08	0.0			
C 9	5.16	2.21	2.74	5.34	2.98	2.38	6.04	3.58	0.0		
C10	4.19	2.92	2.96	5.46	1.13	2.83	5.72	5.20	2.75	0.0	
C11	3.65	0.78	0.41	5.00	3.14	0.56	5.03	4.58	2.77	2.78	0.0

「孤立している」——「排便」「テレビ」「勉強時刻」（他の10項目との距離が5.00以上が5項目以上あるもの）

第1図で○（実線）で囲んであるのが「きわめて類似性が強い」項目であり、○（点線）で囲んであるのが「類似性がある」項目、×印をつけた項目が「孤立している」ものである。（第3図以降も同じ基準である）

さて、以上の点を考慮しながら、とりあげた11の生活習慣の相互関係をみると、おおよそ3群にわけられる。第1群は「毎朝、排便する」習慣で、他の習慣との類似度がほとんどみられず「孤立」している。第2群は、第1象限の原点よりに密集している「朝食」「はみがき」「あいさつ」「しごと」と「ひとりで起きる」習慣で、相互に類似性が強く、子どもたちが共通に身につけている「基礎的生活習慣」である。とくに生理的に条件づけられることもなく、またその習慣形成が比較的単純なものである。ただ、「ひとりで起きる」がこの群から少しはずれた位置にある。第3群は、第3象限に分布しているもので、習慣実行に意志的努力が必要であり、またその習慣形成の条件が複雑なものである。「夕食しながらテレビをみない」を最も困難なものとし「勉強の時刻をきめる」「ふとんなど自分で片付ける」「部屋は自分で掃除する」「外出のとき行先などをいう」が並んでいる。このなかで「ふとん」と「掃除」は類似性あるものとして子どもの生活に位置づいているが、「テレビ」と「勉強」はかなり「孤立」している。これが「孤立」しているということは、他の生活習慣の形成との相関が低いことを意味し、生活習慣の「次元」を異にすることを示すと思われる。このような習慣の「区分」で気がつくことは、我々が当初「基礎的習慣」「生活リズムの習慣」としてグルーピングしたものうち「排便」「起床」が、子どもの生活実態からみると特別な位置にあること、またこのグループに入れなかった「あいさつ」「しごと」がこの中に「きわめて類似性が強い」関係をもってくみこまれることである。「しごと」については後にも触れる予定であるが、子どもたちはきわめて日常的なこと、とくに苦労しないで実行できることとして受けとめていることがわかる。むしろ親が「しごと＝労働＝苦労」というイメージでうけとっている様子がみられる。そして我々の調査でも、無意識的に「しごとをする」ことをより高次なしつけ、習慣の部類

に位置づけていたのである。第3群の習慣は、その位置と内容からさらに2つに区分しておく方がよいかも知れない。それは孤立しているものが、「自己統制・自己規律」の面の強い習慣であり、その他は「外出先をいう」などの家族にたいする「責任感」や「掃除」などのような「役割自覚」「身辺的自立」の習慣など、「生活規律」的性質のものとみられるからである。以上の考察をまとめて図式化したのが、第2図である。



第2図 生活習慣の構造

第2図で「排便」「起床」を「基礎的習慣」の枠外に出しているのは、その類似度の低さからであるが、これが「基礎的」の枠内に入らないということは、今日の子どもの生活の深部にある重大な問題点であるように思われる。この二つは子どもの生理的な生活リズムを代表するものであり、それが子どもたちの「共通」のものになっていないということは、幼少からの子どもの生活においてきちんとした生活リズムが生理的なものに内化されるまでに獲得されてきていないことを示していると思われるからである。また「自己規律」を「基礎的習慣」「生活規律」から点線で結んでいるのは、これらの関係があいまいであることを示す。これも本来、相関的であることが予想されるものであるが、実態はそうになっていないということは、「自己規律」と表示してあるものが実は子ども自身の自主的な自己統制であるかどうか疑わしいことを示しているのではなからうか。これは更に詳しく検討してみなければならない課題であるが、これまでの検討では、この「自己規律」に含められている二つの習慣は、他の習慣形成とは「独立」であり、子どもの「基礎的習慣」や「生活規律」の習慣の獲得がこの「自己規律」に効いているとはいえないからである。

次に、この第1、第2の軸によるカテゴリーの分類において、サンプルの属性はどのような関係にあるかをみよう。サンプルの属性として15項目を設定したが、ここではそのうち「子の性別」「父の年齢」「母の年齢」「父の学歴」「父の職業」「母の職業」「父の職種」「家族数」「子どもの数」「子の出生順」「生活水準についての意識」「地区別」の13項目をとりあげた。属性カテゴリーについては、その平均、分散、標準偏差、「解」間の相関係数が求められている。ここでは平均のみをとりあげ、それぞれの属性がこの軸においてどこに位置するかを確かめ、それを手がかりにして軸にたいする属性の効果をみることにする。第7表は、各属性のカテゴリーのレベルで平均の最も大きいものと最も小さいものをあげ、そのレンジを求めたものである。ただし、そのサンプルカウントが20以下（総サンプル数1,433）のものはあらかじめ除いた。

表から明らかなように、第1軸においては、レンジの大きな属性はなく（子の性別0.43が最大）子どもの生活習慣に関する回答パターンやサンプルの類別において、属性やその属性カテゴリーレベルのちがいが与える影響は大きくないといえる。表では省略したが、このカテゴリーレベルの平

第7表 属性カテゴリー別のサンプルスコアの統計値

属性	第1軸				第2軸			
	最大値	最小値	レンジ	最大値	最小値	レンジ		
子の性別	男 0.38	女 -0.05	0.43	女 0.26	男 0.10	0.16		
父の年齢	51-55 0.37	31-35 0.06	0.31	いない 0.37	51-55 0.10	0.27		
母の年齢	46-50 0.39	31-35 0.09	0.30	46-50 0.26	36-40 0.12	0.14		
父の学歴	中学 0.23	大学 -0.11	0.34	中学 0.43	大学 -0.28	0.71		
母の学歴	中学 0.21	短大 -0.07	0.28	中学 0.37	短大 -0.09	0.46		
父の職業	自営 0.22	雇用 0.16	0.06	自営 0.27	雇用 0.06	0.21		
母の職業	無職 0.18	雇用 0.17	0.01	自営 0.32	無職 0.06	0.26		
父の職種	農業 0.31	公務員 0.10	0.21	農業 0.43	公務員 -0.11	0.54		
家族数	3人 0.40	5人 0.08	0.32	6人以上 0.39	4人 0.05	0.34		
子の数	1人 0.41	3人 0.08	0.33	5人以上 0.43	2人 0.06	0.37		
出生順	末子 0.25	中間子 0.06	0.19	長子 0.17	末子 0.17	0.00		
生活水準	下 0.29	中の上 -0.01	0.30	下 0.23	中の上 0.08	0.15		
地区	旧住宅 0.27	新興住宅 0.02	0.25	沖永良部 0.46	新興住宅 -0.31	0.77		

均の標準偏差はほとんどが1.0前後の値であって、同一のレベルでの分布はレベル間のレンジをはるかに超えている。第2軸では「父の学歴」と「地区」それに「父の職種」がレンジの大きいものである。第2軸は、習慣形成条件の度合の尺度とみることができ、**「高学歴」「新興住宅」「公務員」**が条件の複雑な生活習慣の形成の方向に効いているとみられる。この属性と軸との関係から云えば、子どもの生活規律・自己規律の習慣形成の条件は複雑であるが、家庭ならびに地域の文化的環境とでもいいうるようなものの働きが相対的な意味で大切な役割をしているといえよう。

### 3. 子どもの「自主性」の構造

子どもの自主性についての質問は10問で、C22-C31である。この自主性については四つの側面を考え、C22-24で「計画性」、C25, 26で「自己主張」、C27-29で「自己統制」、C30, 31で「社会的責任」をみようとした。この分類は、調査結果の分析で問題があることがわかった<sup>2)</sup>。では、数量化 III 類の手法を適用した場合、どのような類別が考えられるであろうか、その適用結果の分析を前節と同様の順序で述べよう。

第8表 軸別相関係数、固有値、寄与率

	相関係数	固有値	寄与率 (%)	累積寄与率 (%)
AXIS 1	0.40	0.16	15.3	15.3
AXIS 2	0.38	0.15	13.6	28.9

第8表の軸の固有値、寄与率は、前節の生活習慣の場合とかなり似かよった数値である。第9表より、軸の意味を考察する。第1軸では(+)側に「こづかい計画をたててつかう」「ほしいものつみたててかう」が、(-)側に「テレビの誘惑にまけない」「きれいなものも身体のためならたべ

第9表 カテゴリーウェイト

質問番号	カテゴリー	カウント	AXIS 1	AXIS 2
C22	こづかい計画をたてて	392	3.07	-0.23
C23	ほしいものつみたててかう	653	1.59	0.32
C24	勉強を計画し実行する	506	0.16	-1.56
C25	正しいと思えば主張	936	-0.26	1.20
C26	自分の気持はっきりいう	606	-0.64	0.26
C27	テレビの誘惑にまけない	495	-0.78	-2.42
C28	人に迷惑なことはしない	643	-0.25	-0.19
C29	きらいなものも身体のためなら	799	-0.67	1.01
C30	友との約束まもる	731	-0.39	-0.40
C31	学級の係などがんばる	846	-0.39	0.23

る」がきている。自主性に関する質問であるので共通性があるが解釈しにくい、前者が専ら自分の欲求を充足する方向での計画性であるのに対して、後者は自分の欲求を外的な価値基準によって判断し統制する「自律性」である。そこで第1軸は価値基準が「自己内部——外的」かを区別する尺度とみてよいだろう。第2軸は、(+)側に「正しいと思えば主張」「きらいなものも身体のためなら」が、(-)側に「テレビの誘惑にまけない」「勉強を計画し実行」がきている。これはどちらも自分の気持と当為的価値とのかっとうにおける判断・選択・実行であるが、前者がどちらかといえば伝統的・従来からの価値観を基準としているのにたいし、後者は今日的なテレビの誘惑とか受験にまつわる社会的要請という今日的な価値基準であると解釈できよう。そこで第2軸は「伝統的——今日的」という価値基準での区別をしている尺度とみることにする。第3図はこの2つの軸によって各カテゴリーをプロットしたものである。この図では「自主性」に関する項目はおおよそ4つに分類されているようであるが、各カテゴリー間の距離をつかって、それぞれのカテゴリーを総体としてとらえた場合の類似性をみよう。

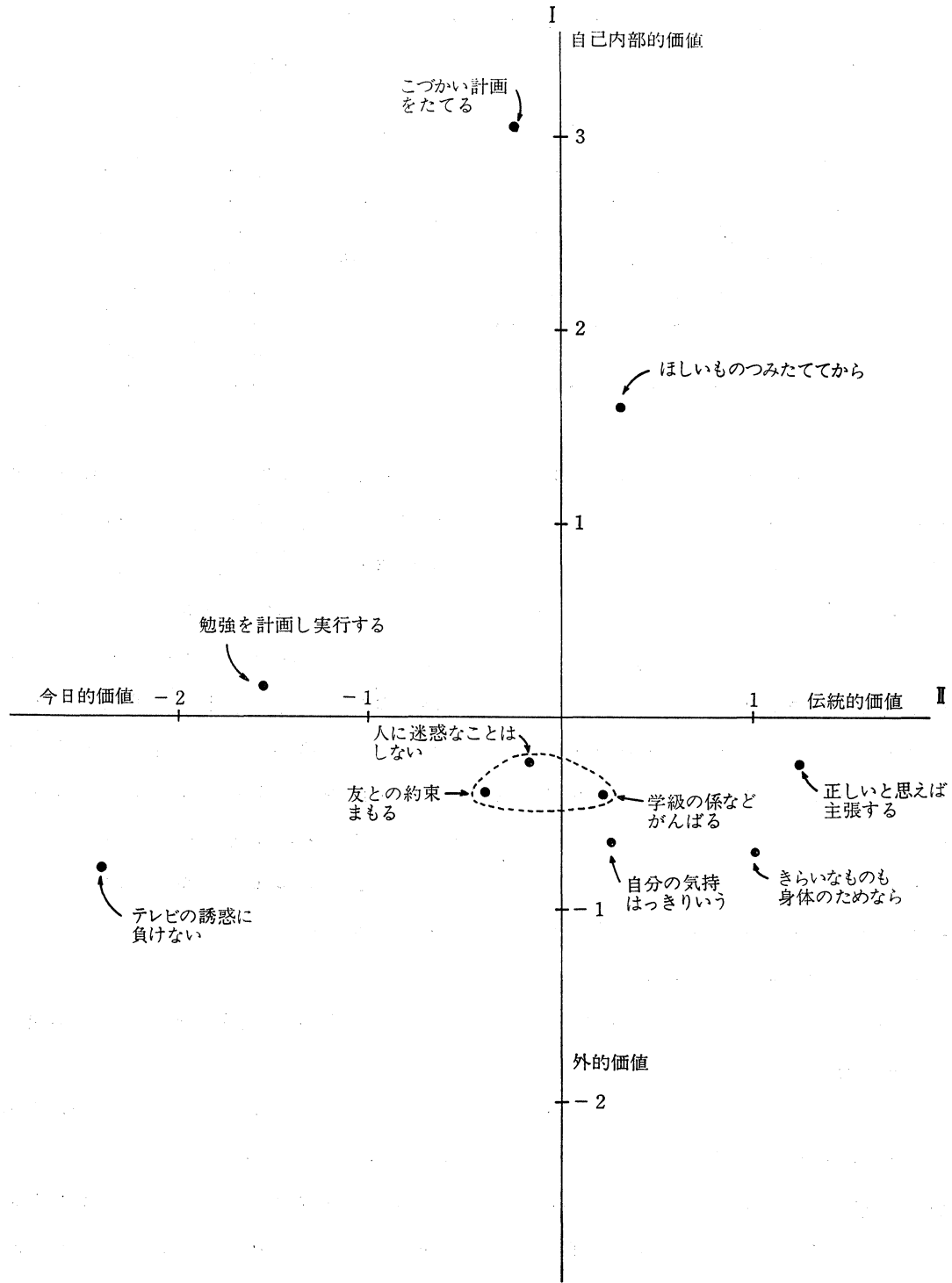
第10表で、前節と同様の基準で各カテゴリー間の類似性をしらべると、次のようになる。

「きわめて類似性が強い」ものはない。

「類似性がある」——「人に迷惑なことはしない」と「学級の係などがんばる」「友との約束まもる」、それに「学級の係」と「約束」という組み合わせの3組である。

「孤立している」——「こづかい計画をたてて」と「テレビの誘惑にまけない」の組み合わせ。

以上から、自主性の各項目は相互に類似性がみられるのは、原点の近くにある3項目だけであって、他は相互の関係はそれほど密接ではないこと、しかしまた全くバラバラに「孤立」しているわけでもないことがわかる。そこでこれらの考察をまとめて、この10項目をグルーピングしてみたのが第4図である。この図で線で結んでいるのはそのカテゴリー間の距離が3以下で、いくらか類似性がみとめられると思われるものである。中心にあるものは、子どもたちにかなり共通に確立しているものである。各項目の当初の区別とやや位置づけが変わるのは「自己統制」と「計画性」にグルーピングしたものである。



第3図 子どもの自主性の構造

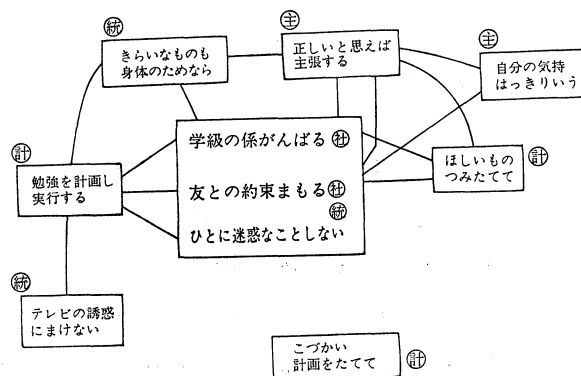
次に属性カテゴリーについてみよう。前節と同様にレンジの大きいもの（0.5以上）をみると、第1軸では「父の職種」のみであり。第2軸ではないので、全体のリストは省略して「父の職種」のみを記す。最大値（会社・団体役員）0.12 最小値（農業）-0.40 でレンジは0.52である。

さて以上の検討から、自主性のなかで今日の子どもに共通に形成されているとみられるのは「社

第10表 カテゴリー間の距離行列

	C22	C23	C24	C25	C26	C27	C28	C29	C30	C31
C22	0.0									
C23	3.67	0.0								
C24	3.62	3.39	0.0							
C25	4.56	2.29	3.61	0.0						
C26	4.24	4.49	3.93	3.30	0.0					
C27	5.24	3.95	2.53	3.75	4.30	0.0				
C28	4.41	3.32	2.82	3.43	4.00	4.32	0.0			
C29	4.49	3.84	2.84	2.88	4.03	4.25	3.44	0.0		
C30	4.37	2.78	2.85	2.55	3.06	3.40	1.65	3.69	0.0	
C31	3.99	2.88	2.36	2.43	3.15	3.75	1.23	2.44	1.45	0.0

会性・子どもの社会生活上の責任感」にかかわるものであり、それとの若干の関連性をもって他の側面の自主性が位置づいていることがわかる。また「勉強の計画・実行」と「正しいと思えば主張する」がその他の項目と比較的関連性の多いことも興味あることである。これはいまの子どもの自主性が「学校生活」と深いかかわりの中で形成される傾向を示すようである。項目の類別において「自己統制」「計画性」



第4図 自主性の構造

という内容を離れた抽象的・観念的なおさえ方では子どもの自主性をつかまえられないこと、「自分がやりたいと思っても他人に迷惑になるようなことは、じっとがまんする」という質問は、自己統制の面よりも「社会性」の面が強うけとめられていることも注意すべき点である。

#### 4. 母親による子どもの生活把握

我々の調査では、母親にたいして子どもへの質問と同じものを用意し、母子の一致度をみる事ができるようになっている。そこで母親への質問のなかから子どもの生活習慣をたづねているもの15問 (M11~25) を選んで数量化 III 類の解析を行った。

第11表のように、軸の固有値はやや小さく、2軸の累積寄与率もかなり低く、この2軸での説明力はやや弱いようである。第12表のカテゴリーウェイトから軸の意味を考察すると、第1軸では、

第11表 軸別相関係数・固有値・寄与率 (%)

	相関係数	固有値	寄与率	累積寄与率
AXIS 1	0.37	0.14	11.8	11.8
AXIS 2	0.35	0.12	10.3	22.1

第12表 カテゴリーウェイト

質問番号	カテゴリー	カウント	AXIS 1	AXIS 2
M11	はみがきする	868	0.53	0.29
M12	家事など手伝う	201	-2.07	1.03
M13	他人の意見をきく	453	-1.03	-1.11
M14	けじめをつける	715	-0.23	-1.01
M15	自分の考えははっきりいう	356	-1.21	-3.78
M16	乗物で騒がない	803	1.06	0.35
M17	あいさつする	1203	0.76	-0.07
M18	友と仲が良い	928	0.87	-0.27
M19	行先などいう	476	-0.56	0.37
M20	部屋の掃除をする	344	-1.84	2.29
M21	うそをつかない	683	0.01	0.43
M22	公園など汚さない	784	0.39	0.39
M23	最後までやりとげる	280	-2.39	0.59
M24	時間のけじめをつける	311	-2.23	0.51
M25	むだづかいしない	811	0.49	0.35

(+)側に「乗物で騒がない」「友と仲が良い」「あいさつする」が、(-)側に「最後までやりとげる」「時間のけじめをつける」「家事など手伝う」が並び、「環境適応——意志的努力」で習慣を区別している軸とみられる。第2軸は、(+)側に「部屋の掃除」「家事など手伝う」が、(-)側に「自分の考えをはっきりいう」「他人の意見をきく」「けじめをつける」がきており、「身辺的自立あるいは日常生活における習慣——対他的関係における内面的な自己確立」を区別している軸と意味づけることができよう。この2つの軸でカテゴリーの位置をプロットしたのが第5図である。

第5図における2つの軸による説明力はあまり大きくないので、カテゴリー間の距離を参考にし、て類別化を考えよう。

第13表のカテゴリー間の距離を、これまでと同じ基準でみていくと、次のようなグループが見出せる。

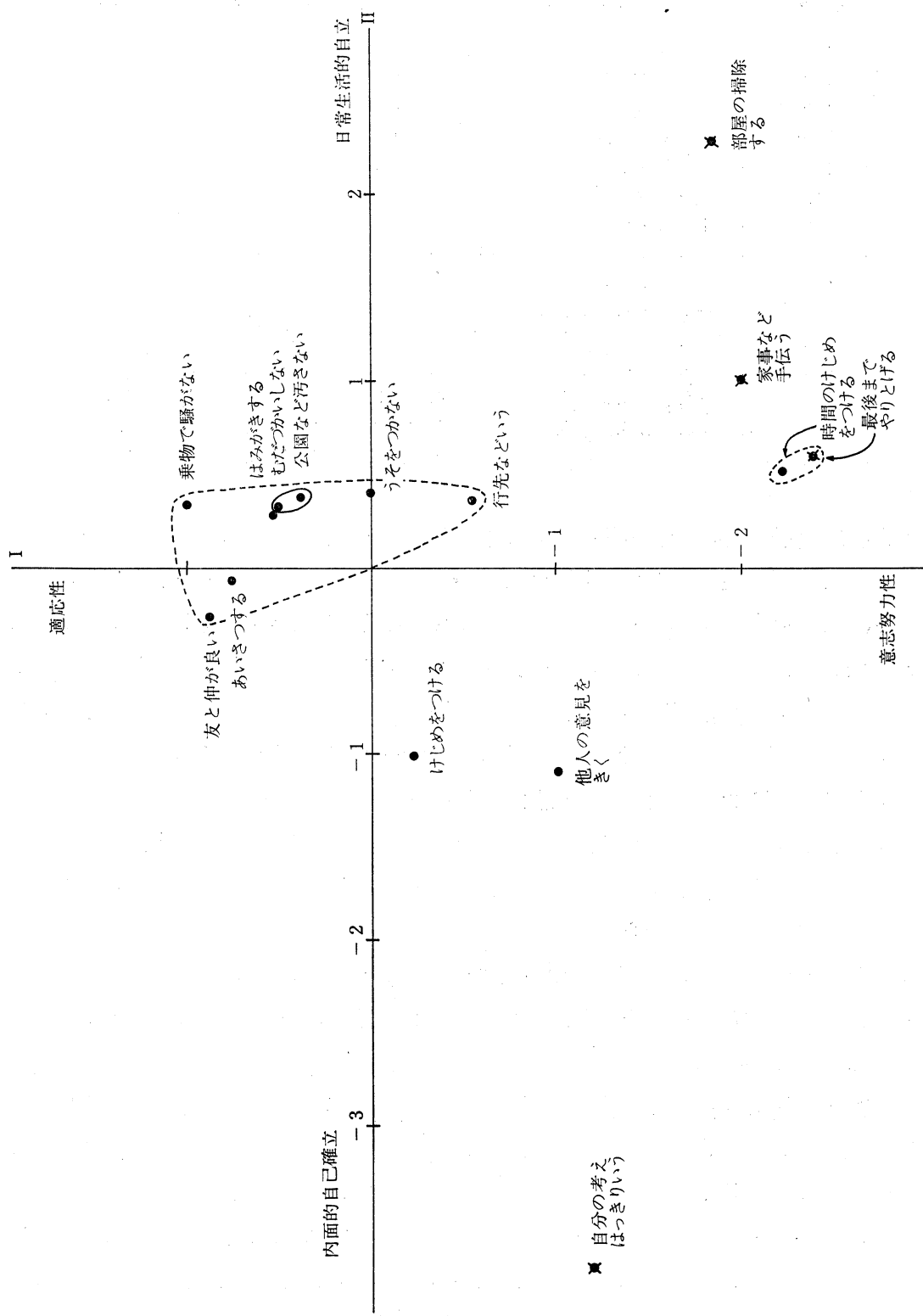
「きわめて類似性が強い」——「公園など汚さない」と「むだづかいしない」の組み合わせ

「類似性がある」——「あいさつする」「行先をいう」「うそをつかない」「公園など汚さない」「友と仲が良い」「乗物で騒がない」「むだづかいしない」(これは15項目の相互の間で距離が1.01~2.00の組み合わせが5つ以上あるものである。)

「孤立している」——「家事など手伝う」「自分の考えははっきりいう」「部屋の掃除をする」「最後までやりとげる」(これも距離が5.01以上の組み合わせが5つ以上あるものである。)

以上をまとめて、母親によってとらえられた子どもの生活構造を考えてみよう。(これは母親の目をとおしたものという点で、子どもの生活構造そのものではなく母親の認知的な枠組みによるものであるが、その場合、この枠組みによる偏りが大きいかどうかはわからないという問題は残る。)この15問は、おおよそ3つの領域に区別できる。第1は、第1象限を中心としている8つの項目である。これらは相互に類似性があり、共通的基礎的な生活習慣とみられる。「乗物で騒がない」





第5図 母親による子どもの生活把握

第13表 カテゴリー間の距離行列

	M11	M12	M13	M14	M15	M16	M17	M18	M19	M20	M21	M22	M23	M24	M25
M11	0.0														
M12	6.57	0.0													
M13	4.19	6.96	0.0												
M14	2.15	6.80	2.37	0.0											
M15	4.88	8.11	6.00	4.33	0.0										
M16	2.75	6.46	4.40	2.94	5.54	0.0									
M17	1.10	6.77	3.71	1.64	4.79	1.92	0.0								
M18	2.39	7.09	3.08	1.70	5.32	1.71	1.35	0.0							
M19	1.43	6.56	3.71	1.83	4.68	2.65	1.44	2.24	0.0						
M20	3.63	7.72	5.29	4.36	6.95	5.49	4.25	4.96	3.17	0.0					
M21	2.52	7.15	3.58	2.18	5.35	1.83	1.73	1.41	1.68	4.28	0.0				
M22	1.41	6.60	4.39	2.35	4.74	1.73	1.07	2.00	1.27	4.14	1.64	0.0			
M23	5.15	7.27	5.37	4.64	5.89	3.98	4.65	4.44	3.89	5.72	3.30	4.01	0.0		
M24	4.05	7.50	4.56	3.57	5.27	3.83	3.72	3.74	2.65	4.18	2.48	3.20	1.81	0.0	
M25	1.37	6.56	4.53	2.45	4.69	1.77	1.12	2.12	1.42	4.24	1.86	0.23	4.16	3.39	0.0

「公園など汚さない」という社会道徳的なもの「友と仲が良い」という社会性、「はみがきする」「むだづかいしない」「うそをつかない」「あいさつする」「行先などいう」という家庭生活における基礎的習慣やけじめがここに含まれている。第2は第4象限でかなり「孤立」して子どもたちの生活で共通的には確立していない「身辺的自立」や「家庭における役割の自覚」や「生活の自己規律」の習慣である。「部屋を掃除」「家事の手伝い」「時間のけじめ」「最後までやりとげる」などがそうである。この中で「時間のけじめ」と「最後までやりとげる」の組み合わせは類似性があるが、他は相互の距離がかなり大きく「独立」的である。第3は第3象限にあるもので「内面的な自己の確立」「他人との関係で自己を客観化していく」内容を含んだものである。「自分の考えをはっきりいう」「他人の意見をきく」「人の好意にありがとう、自分がわかったときはごめんなさいなどけじめをつける」という項目であるが、とくに「自分の考えをはっきりと」は他から大きく離れており、今日の子どもの本質的な面で自我の確立が弱いことを示している。この母親のとらえた子どもの生活構造と最初にみてきた子ども自身の回答による生活習慣・自主性の構造とくらべてみると、かなりくいちがいが目につく。たとえば、子どものC11「しごとをたのまれたらする」と母のM12「家事など手伝う」あるいは「部屋の掃除」についてのC10とM20、「意思表示」のC25、C26とM15などである。このくいちがいは、母親の判断基準の問題もあるが、質問の内容のよみとり方やそれについての既成観念のちがいにあるようにも思われる。たとえば「手伝い」「家事など手伝う」について云えば、子どもの側は「お父さん、お母さんにしごとをたのまれたら」それに応ずるつもりであるのに、母親の側は子どもに手伝いをさせることになれていなくて、今の子どもは働かなくなった、手伝いをしないという先入観にとらわれているようにも思われるのである。このように、このくいちがいについて検討してみる必要はあるがここではデータ不足であるので保留しておきたい。

次に、サンプルの属性カテゴリーと軸との関係のみよう。これまでと同様の方法でレンジの大きいものを探すと、第1軸、第2軸ともレンジが0.5以上のものはなく、第1軸では「生活水準意識」の0.35、第2軸では「子どもの数」で0.36であり、属性はこの2つの軸では考慮する必要がない。つまり、第5図にみられるような子どもの生活についての母親の把握のしかたは、かなり一般的なものだといえよう。

## 5. 母親のしつけの構造

次に、母親の子どもにたいするしつけの状況について検討しよう。この調査では、母親のしつけにたいして「現在はしなくても、これまでにしてきたことであれば『している』というようにお答えください」という条件で質問したものであるが、回答を調べた結果では、この条件はかなり無視されていると思われる結果がでていた<sup>3)</sup>。しかし本論の対象は小学5年の子と母親についてのデータであるので、この条件の有無によって母親の回答が左右されることはあまりないと思われるので、データは調査時点での母親のしつけを反映するものとみることにする。

質問は M26-M40 の15問で、このうち M32-M40 の9問については全く同じ質問内容で子どもに母親のしつけの有無をたづねている。この15問についての数量化 III 類の解析の結果は、第14表にみるように、第1、第2の軸の固有値、寄与率はかなり小さい。第15表から、軸の意味を考察すると、第1軸では(+)側に「むだづかい」「はみがき」「乗物で騒がない」といったしつけが並

第14表 軸別相関係数・固有値・寄与率(%)

	相関係数	固有値	寄与率	累積寄与率
AXIS 1	0.33	0.11	12.4	12.4
AXIS 2	0.30	0.09	10.5	23.0

第15表 カテゴリーウェイト

質問番号	カテゴリー	カウント	AXIS 1	AXIS 2
M26	はみがきをするよう	681	0.82	1.41
M27	手伝いをさせる	386	-3.90	3.23
M28	他人の云うことをきくよう	700	-0.16	0.14
M29	ようけじめをつけるよう	1005	-0.05	-0.19
M30	自分の意見をはっきり	1075	-0.63	-0.47
M31	乗物で騒がないよう	655	0.81	0.51
M32	あいみづをするよう	767	0.54	0.42
M33	友と仲良くするよう	755	0.63	0.30
M34	外出すると旅行先をいうよう	753	0.41	-0.21
M35	部屋の掃除をするよう	837	0.69	0.10
M36	うそをつかないよう	1101	-0.23	-0.34
M37	公園などを汚さないよう	533	0.83	-0.06
M38	最後までやりとげるよう	624	-0.31	-1.44
M39	時間にけじめをつけるよう	622	-1.74	-2.35
M40	むだづかさないよう	611	0.90	0.56

んでいるが、その数値はかなり小さく、軸による類別が(+)側で明瞭に出ていない。(一)側には「手伝い」「時間のけじめ」などがきている。前者は、日常的・基礎的なしつけであり、後者はより高次の、内面的・意志的なものの形成を求めるしつけとみることができるから、この軸はしつけの内容的なレベルを区別しているものと解釈する。第2軸は、(+)側に「手伝い」「はみがき」が、(一)側に「時間のけじめ」「最後までやりとげる」が並んでいる。前者は、具体的で行為が明瞭なしつけであり、後者は抽象的・態度的なものである。この軸の意味づけは適切な表現が仲々みつからないが、一応「行為的—態度的」の尺度でしつけを類別しているととらえよう。この2軸によって各カテゴリーをプロットしたのが第6図である。この図でもかなりよく「しつけ」が類別されているが、先にも指摘したように、この2軸の説明力は必ずしも強いとはいえないので、各カテゴリー間の距離を参考にして、その類似性をたしかめておこう。

第16表 カテゴリー間の距離行列

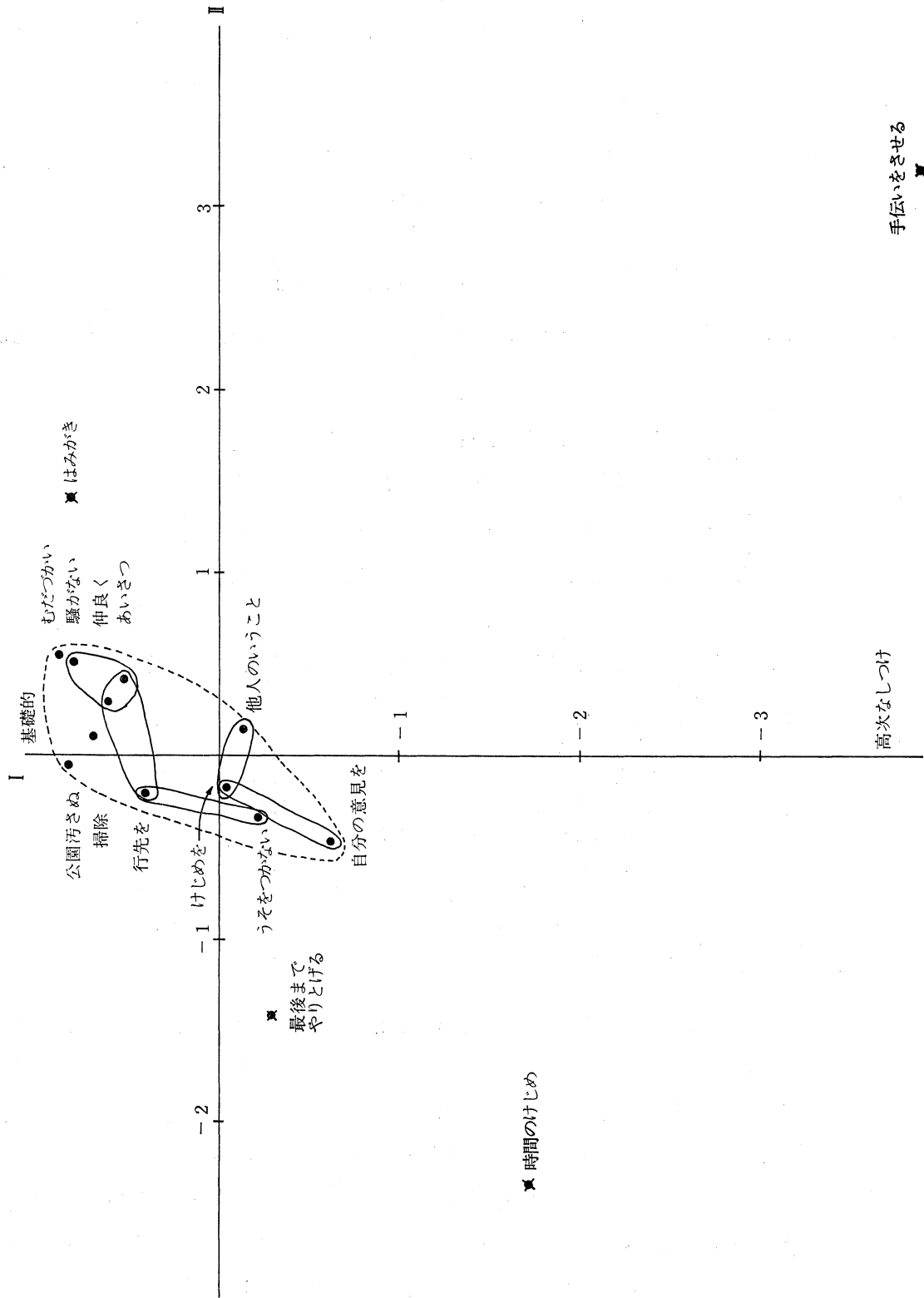
	M26	M27	M28	M29	M30	M31	M32	M33	M34	M35	M36	M37	M38	M39	M40
M26	0.0														
M27	6.46	0.0													
M28	4.12	5.62	0.0												
M29	3.65	5.72	0.76	0.0											
M30	3.95	5.41	1.26	0.88	0.0										
M31	4.43	5.76	2.07	2.09	2.62	0.0									
M32	3.60	5.50	1.79	1.52	2.03	0.95	0.0								
M33	4.09	5.52	2.19	1.98	2.32	0.84	0.68	0.0							
M34	3.87	5.61	2.24	1.80	2.01	1.47	0.90	0.74	0.0						
M35	3.04	5.72	3.10	2.53	2.58	2.63	1.87	1.87	1.45	0.0					
M36	3.52	5.33	1.93	1.32	1.31	2.09	1.30	1.53	0.96	1.59	0.0				
M37	5.21	5.90	3.06	2.95	3.11	1.55	1.91	1.25	1.59	2.58	2.44	0.0			
M38	5.57	6.61	4.42	4.08	3.44	4.95	4.47	4.31	3.91	3.54	3.69	4.31	0.0		
M39	5.62	6.70	4.85	4.33	4.18	4.82	4.34	4.42	3.85	4.29	3.49	4.85	5.82	0.0	
M40	4.11	5.67	4.19	3.76	3.82	3.00	2.62	2.28	2.16	1.58	2.72	2.41	4.27	4.77	0.0

第16表の距離行列を、これまでと同様の方法でみていくと、次のような類似性が見出される。

「きわめて類似性が強い」——「他人の云うことを」(M28)「けじめを」(M29)「自分の意見を」(M30)「乗物で騒がない」(M31)「あいさつ」(M32)「仲良く」(M33)「行先を」(M34)「うそをつかない」(M36)の8項目。(その組み合わせは省略する。第6図で○実線で囲んであるものがそうである。)

「類似性がある」——(4組以上の組み合わせで、距離2.00以下のもの)「他人の云うことを」(M28)「けじめを」(M29)「騒がない」(M31)「あいさつ」(M32)「仲良く」(M33)「行先を」(M34)「部屋の掃除」(M35)「うそをつかない」(M36)「公園汚さない」(M37)の9項目(第6図の○点線の内部)

「孤立している」——「手伝い」(M27)「時間のけじめ」(M39)「最後まで」(M38)「はみがき」(M26)の4項目(第6図の×印)



第6図 子どもの生活実態 (子どもの回答—その1)

第6図をみると、母親のしつけで共通性のあるものと、かなり「孤立」しているものとに分かれている。「はみがき」が「孤立」の方に位置づくのは、恐らくこのしつけが小学5年の子どもの段階では「完了」しているとする母親が比較的多いからではないかと思われる。「手伝い」や「時間のけじめ」「最後までやりとげる」というしつけについては、母親の間に共通性がないことは「しつけ問題」の今日の特徴を示すもののように思われる。

次に、属性カテゴリーとの関係を見よう。これまでと同様の方法でレンジの大きいものを求めてみると、いずれの軸でも該当するカテゴリーは見あたらなかった。

## 6. 子どもの「しつけの受けとめ」

最後に、母親のしつけを子どもがどのように受けとめているかについて検討する。質問は C32-C40 の9問である。

第17表 軸別相関係数・固有値・寄与率 (%)

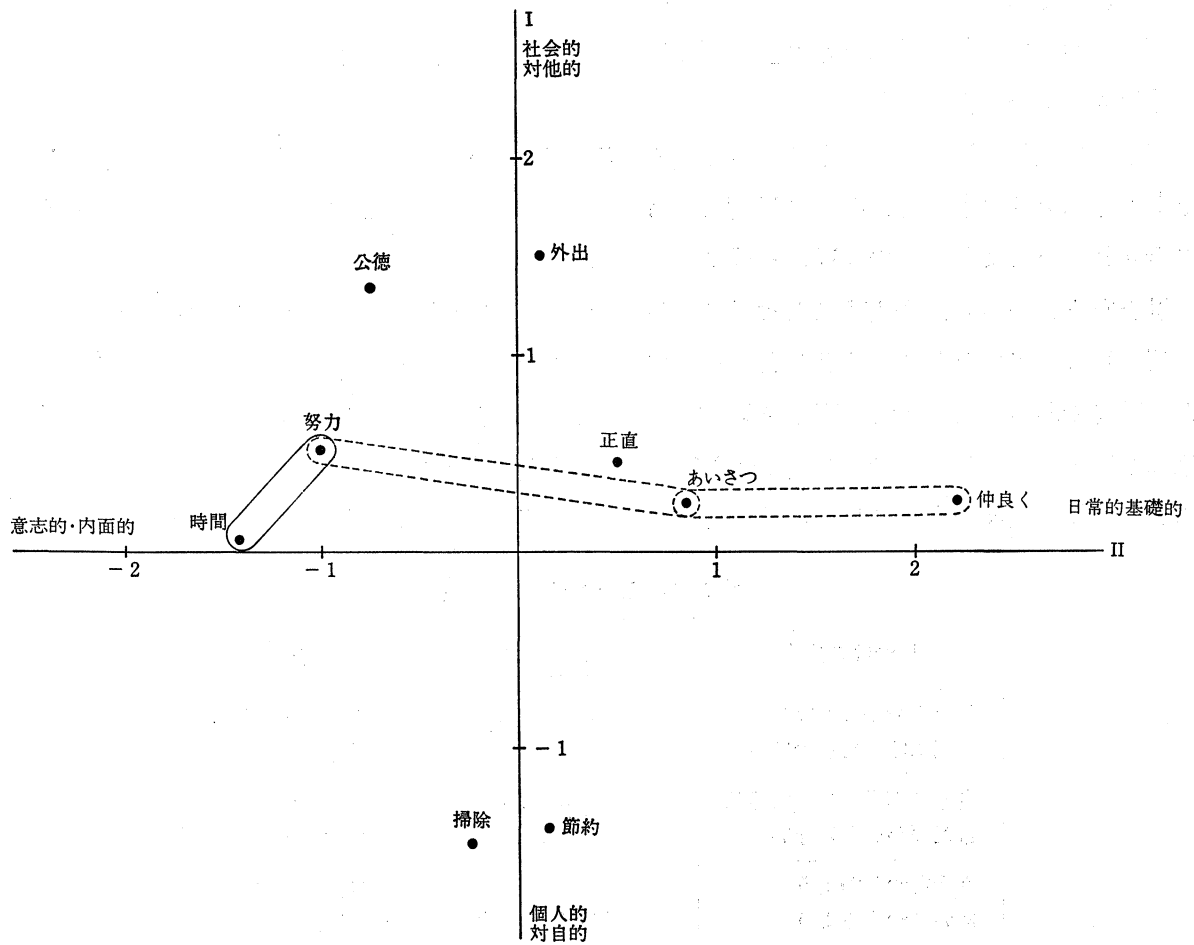
	相関係数	固有値	寄与率	累積寄与率
AXIS 1	0.37	0.14	16.2	16.2
AXIS 2	0.35	0.12	14.3	30.5

第18表

質問番号	カテゴリー	カウント	AXIS 1	AXIS 2
C32	あいさつするよう	733	0.25	0.85
C33	友と仲良くするよう	607	0.26	2.21
C34	外出先はときく	600	1.51	0.12
C35	部屋の掃除をするよう	946	-1.50	-0.26
C36	うそをつかぬよう	703	0.45	0.50
C37	公園など汚さぬよう	433	1.34	-0.76
C38	最後までやりとげるよう	796	0.53	-1.03
C39	時間にけじめをつけるよう	781	0.06	-1.43
C40	むだづかいしないよう	837	-1.42	0.15

軸の固有値・寄与率ともに比較的大きく、累積寄与率は30%を超えているので、2軸による説明力はかなりある。

軸の意味について考察すると、第1軸は(+)側に「外出先は」と「公園など汚さぬよう」という他者との関係(家族の一員、社会の一員としての責任・自覚をうながす)におけるしつけが、(-)側には「部屋の掃除」「むだづかいしない」という自分の生活にきまりをつけるしつけがきているから、「対他——対自」あるいは「社会的——個人的」というしつけ内容の区分をしている軸とみられる。第2軸は、(+)側に「仲良く」「あいさつ」が、(-)側に「時間のけじめ」「最後までやりとげる」がきている。前者はきわめて日常的で基礎的レベルのしつけであり、後者は意志的な努力を必要とするレベルの高い内面的なしつけであるから、しつけのレベルを区別している軸と



第7図 子どもの生活実態 (子どもの回答—その2)  
しつけのうけとめ

みることができる。この2つの軸でしつけ項目をプロットしたのが第7図である。

第7図では、しつけの項目はかなり分散しており、まとまりがはっきりしていないが、第19表の 카테고리間の距離を使って、類似性を補正しよう。(図中の〇〇がその結果である。)

表からこれまでと同じ基準で「類似」性をしらべると、次のようになる。

第 19 表

質問番号	C32	C33	C34	C35	C36	C37	C38	C39	C40
C32	0.0								
C33	1.82	0.0							
C34	3.47	4.41	0.0						
C35	2.75	3.50	3.68	0.0					
C36	2.48	3.69	3.68	3.94	0.0				
C37	4.41	4.51	4.86	4.47	4.56	0.0			
C38	1.95	3.41	3.63	2.86	2.80	3.69	0.0		
C39	2.31	3.92	4.02	2.94	3.13	4.50	0.91	0.0	
C40	2.92	3.79	4.19	2.56	2.32	4.25	3.09	3.30	0.0

「きわめて類似性が強い」——「最後までやりとげる」と「時間にけじめを」の組み合わせ  
 「類似性がある」——「あいさつ」と「仲良く」、 「あいさつ」と「最後まで」の二組  
 「孤立している」 なし。

図中で比較的接近しているものの距離をみてみよう。「外出先」と「公園汚さぬ」は(4.86)「うそ」と「あいさつ」は(2.48)「掃除」と「むだづかい」は(2.56)であるから、あとの2組は図に示されているように、やゝ近い関係にあるとみられる。

以上をまとめると、子どものしつけのうけとめはかなり多様で共通したパターンはなく、前節の母親のしつけではかなりの項目がまとまっており母親はそれらを共通に努力しているとみられるのと対照的である。しつけの項目の内容的な区分では、子どもの反応の方がカテゴリーの共通性を正確にうけとめているようで、9のしつけ項目はおおよそ4群に区別されている。この子どもの反応による分類と我々の当初のしつけ分類とを対比させてみると、第20表のようになる。

第20表 しつけの分類

しつけの内容	数量化Ⅲ類による 内容分類	当初の分類
最後までやりとげる 時間にけじめをつける	意志的努力	自主性・主体性 日常生活規律
自分の部屋は自分で掃除 むだづかいをしない	生活規律	日常生活規律 自主性・主体性
うそをつかぬよう あいさつするよう 友と仲良く	基礎的・日常的	自主性・主体性 基礎的 基礎的
外出するとき先を 公園など汚さない	家庭内 社会的 } 他者との関係	日常生活規律 社会性

この「しつけのうけとめ」において属性カテゴリーの効き方はどうであろうか。これまでと同様の方法でレンジの大きいものを取りだしてみよう。第2軸については該当するカテゴリーはないが第1軸については次表(第21表)のようになる。

第21表 属性カテゴリーの平均(第1軸について)

属性	最大値		最小値		レンジ
父の学歴	大 学	0.25	中 学	-0.46	0.71
母の学歴	短 大	0.19	中 学	-0.49	0.68
父の職種	事 務	0.16	農 業	-0.52	0.68
地 区	商 業	0.18	沖永良部	-0.46	0.64

すなわち、第1軸(しつけを対他——対自、あるいは社会的——個人的という尺度でわけている)において、父母の高学歴・父の職種が事務職・地域的には都市商業地区の子どもが若干(+)  
 側——対他的・社会的しつけ——に位置し、父の低学歴・父の職種が農林水産業・地域的には沖永



良部の町村の子どもがやゝ（一）側——対自的・個人的しつけ——に位置している。もっともこの軸上の位置は、第7図のカテゴリーの分布のひろがり方からみるとそれほど大きなちがいではないし、また各カテゴリー（レベル）のスコアの標準偏差は1~2の値でこのレンジをはるかにうまわるから、属性カテゴリーの効果を大きくみることはできない。

## 7. む す び

数量化 III 類を適用して「子ども調査」の質問項目と回答パターンとの関係を分析してきたが、その結果を要約すれば次のとおりである。

1. 回答パターンの解析による質問項目のカテゴリー的分類は、質問紙作成時に想定した項目分類といくらか異なった結果となった。このことは今日の子どもの生活（習慣）構造の変容とかかわっていると推測されるので、回答結果の分析・解釈にあたっては、この実態に即したカテゴリーで枠組みを修正して行なう必要があると思われる。
2. この解析によって項目間の類似性がかなりはっきりした。その類似性の強いものは、我々の対象とした〈鹿児島島の小学5年の子ども〉の生活（習慣）における共通的なものを示すとみられるから、そこから今日の子どもの基礎的習慣の特徴をおさえることができると思われる。このようにみることが許されるならば、この基礎的習慣に「ひとりで起きる」「毎朝排便する」がふくまなかったことは、子どもの生活における基礎的な生活リズムの形成の面でかなり不十分さがあることを示唆しているとみてよいだろう。
3. 子ども生活（習慣）の構造に基礎的なものからより高次なものへという階層的な構造が見出された。しかしこの階層間の結びつきは必ずしもはっきりしていない。項目によってはかなり「孤立」しているものがあつた。これは、質問項目の数があまり多くないことも関係があると思われるが、生活習慣の積み上げ的な形成が不十分であるという可能性もまた否定できない。この点は今後更に検討を要する課題である。
4. このことと関連して、より高次な生活習慣、たとえば自主性・自己統制をあらわす項目が「孤立」している。これは、それらの習慣を身につけている子どもが、それを支える基礎的な習慣を確立しているかどうかを調べてみる必要があるとみられる。これまでの解析では確言することはできないが、それらが擬似的な自主性・自己統制——なんらかの強い外的な規制によって生みだされた——ではないかという疑いがあるからである。
5. 今回は、対象を小学5年の子どもに限定したので、得られた「生活（習慣）の構造」は小学5年の段階のものである。この調査では、中学1年、中学3年の生徒についても同じ質問で調査しているので、子どもの発達段階によってこの構造がどのように変化していくかを明らかにするデータが得られている。この比較研究は今後の課題である。
6. 今回の解析においては、項目の分類的把握を主眼としたので、子どもにたいする質問項目を生活習慣、自主性、しつけのうけとめの三つに区分して解析した。そのため、それぞれの「軸」

やカテゴリーウエイトの値は、比較できないものになった。またさきに述べたように軸の意味解釈もかなり不分明な点があった。

7. この手法の特性をまだ十分につかみきっていない点があり、今回の解析では適用上工夫すべき点が残っているが、データの総体がもっている情報をひき出すという点では、数量化 III 類の解析は有効性をもつといえよう。

#### 註

- 1) この調査については次の報告書等を参照  
『鹿児島の子どもと親の生活と意識 調査報告書 (第一次)』1981.5 鹿児島子ども研究センター  
『鹿児島の子どもと親の生活と意識 調査報告書 (農村・難島編)』1982.5 鹿児島子ども研究センター  
『鹿児島子ども研究センター 研究報告 特集：鹿児島の子どもと親の生活と意識』1982. No.1 1982.9 鹿児島子ども研究センター  
(鹿児島子ども研究センター は、民間の研究団体である。連絡先は鹿児島大学教育学部教育学第四研究室)
- 2) 碓井岑夫「子どもの自主性としつけに関する調査研究」『鹿児島大学教育学部研究紀要 第33巻』1982.3
- 3) 前掲『鹿児島の子どもと親の生活と意識 調査報告書 (第一次)』の第IV章「子どものしつけ」参照